

令和 6 年仙台市の人口動向

人口の動向は、自然動態（出生及び死亡の動き）及び社会動態（転入及び転出の動き）によって説明されます。この特集は、令和 6 年 1 年間の仙台市の人口動向について、社会動態を中心に報告するものです。

利用上の注意

- ・本報告書で用いた地域区分は次のとおりです。

仙台都市圏内の他市町村：（東部ブロック）塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町
 （北部ブロック）富谷市、大和町、大郷町、大衡村
 （南部ブロック）名取市、岩沼市、亘理町、山元町

北海道地方：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 東北 5 県は、東北地方から宮城県を除いた地域

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※なお、本文中にある「その他の地方」は、特にことわりのない場合、上記のうち東北地方と東京圏を除いた地域をいいます。

用語の説明

- ・人口増加数＝自然増加数＋社会増加数
- ・自然増加数＝出生数－死亡数
- ・社会増加数＝転入数－転出数＋その他の増加数（職権記載・消除、国籍取得・喪失、転出取消等）

解説

I 住民基本台帳人口（日本人住民＋外国人住民）による人口動向

1 概要

令和 6 年末の住民基本台帳人口は 106 万 4,142 人でした。

また、令和 6 年 1 年間の人口増加数は△2,220 人となり、前年の人口増加数△1,124 人に比べ 1,096 人の減少となっています。その内訳は、自然増加数が△4,994 人（対前年 439 人の減少）、社会増加数が 2,774 人（対前年 657 人の減少）となりました。

（表 1、図 1、統計表第 1 表）

表 1 住民基本台帳人口の推移－全市、区（令和元年～令和 6 年）

年 次	各年末（単位：人）							
	仙 台 市	青 葉 区	う ち 宮城総合 支 所	宮 城 野 区	若 林 区	太 白 区	う ち 秋保総合 支 所	泉 区
令和元年	1,064,060	292,998	74,365	190,215	136,465	231,353	4,059	213,029
2	1,065,932	293,003	74,642	190,567	137,281	232,642	3,978	212,439
3	1,065,365	292,827	74,720	190,228	137,282	233,642	3,858	211,386
4	1,067,486	295,255	74,649	189,431	137,911	234,493	3,783	210,396
5	1,066,362	296,023	74,320	188,223	138,414	234,772	3,767	208,930
6	1,064,142	296,338	73,713	187,541	138,173	234,710	3,762	207,380

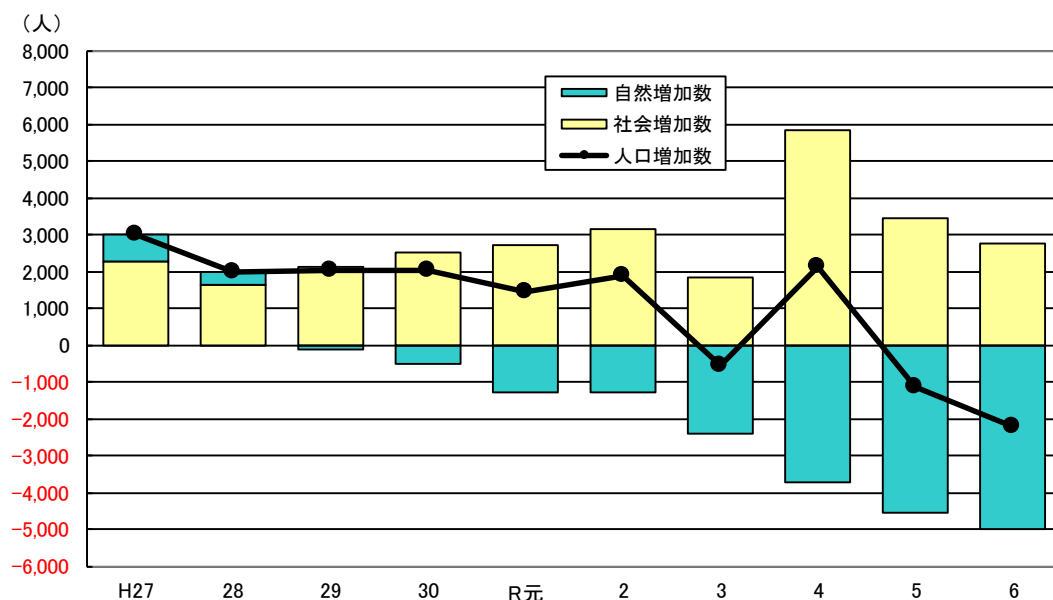


図 1 人口増加数の推移（平成 27 年～令和 6 年）

区別の動向をみると、青葉区を除く4区において前年より人口が減少しました。また、宮城野区を除く4区において前年の人口増加数を下回りました。

人口増加数が最も多かったのは青葉区の315人（自然増加数△1,556人、社会増加数1,871人）で、以下、太白区の△62人（自然増加数△1,132人、社会増加数1,070人）、若林区の△241人（自然増加数△518人、社会増加数277人）、宮城野区の△682人（自然増加数△550人、社会増加数△132人）、泉区の△1,550人（自然増加数△1,238人、社会増加数△312人）でした。

（表1、図2、統計表第1表）

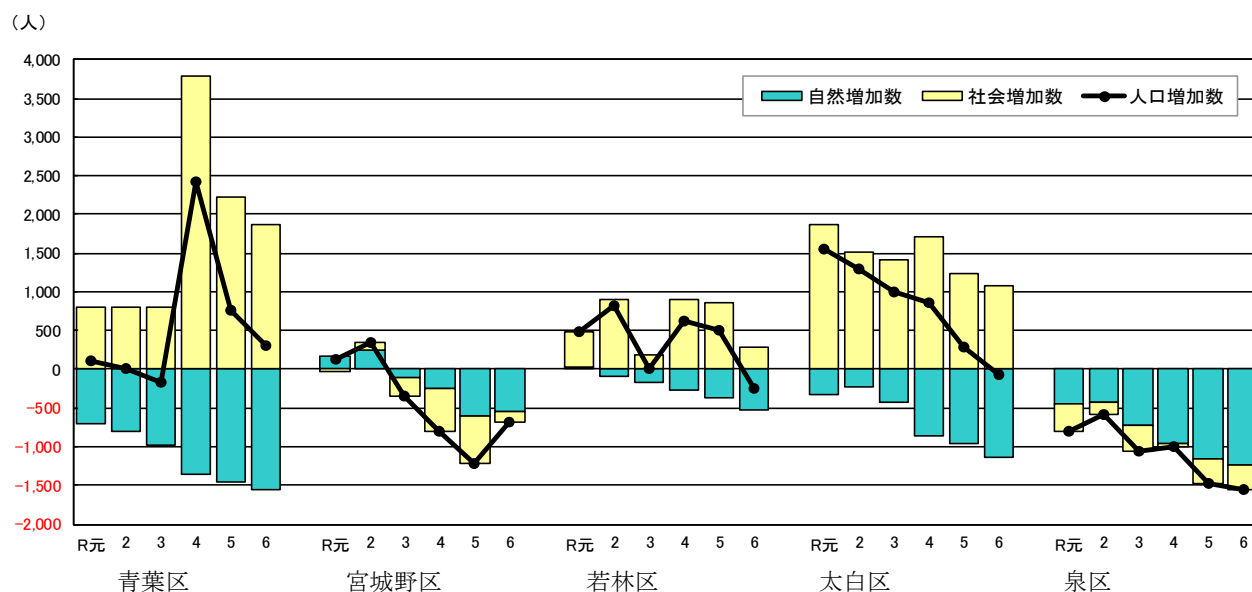


図2 人口増加数の推移－区（令和元年～令和6年）

2 自然動態

令和6年の出生数は前年より406人減少して6,278人、死亡数は前年より33人増加して11,272人となったことから、自然増加数は△4,994人となり、前年の△4,555人に比べ439人減少しました。自然増加数は8年連続で減少しています。また死亡数は12年連続で増加しました。

(図3、統計表第1表)

区別の動向をみると、出生数は全ての区で前年より減少し、死亡数は青葉区、若林区、太白区で前年より増加しました。

自然増加数のマイナス幅が最も小さかったのは若林区の△518人(出生数857人、死亡数1,375人)で、以下、宮城野区の△550人(出生数1,245人、死亡数1,795人)、太白区の△1,132人(出生数1,513人、死亡数2,645人)、泉区の△1,238人(出生数1,013人、死亡数2,251人)、青葉区の△1,556人(出生数1,650人、死亡数3,206人)でした。

(図4、統計表第1表)

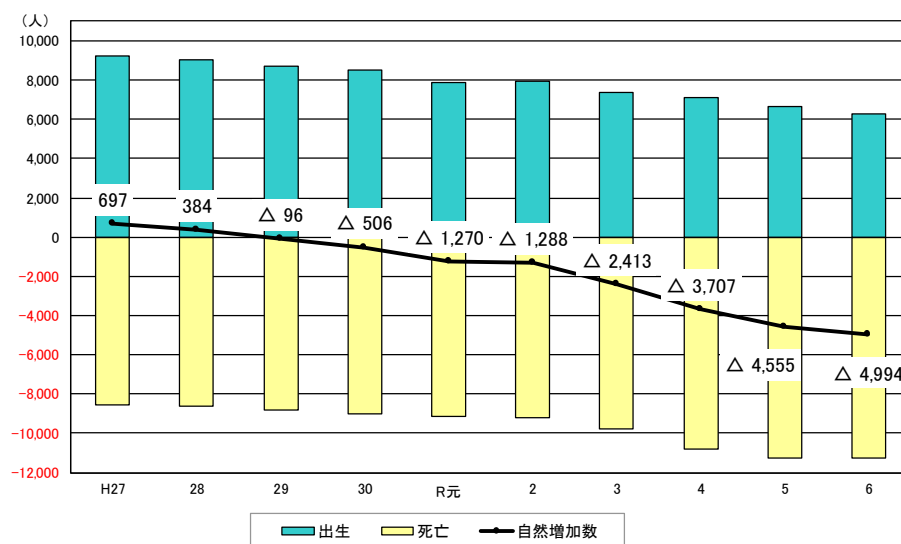


図3 自然動態の推移—全市（平成27年～令和6年）

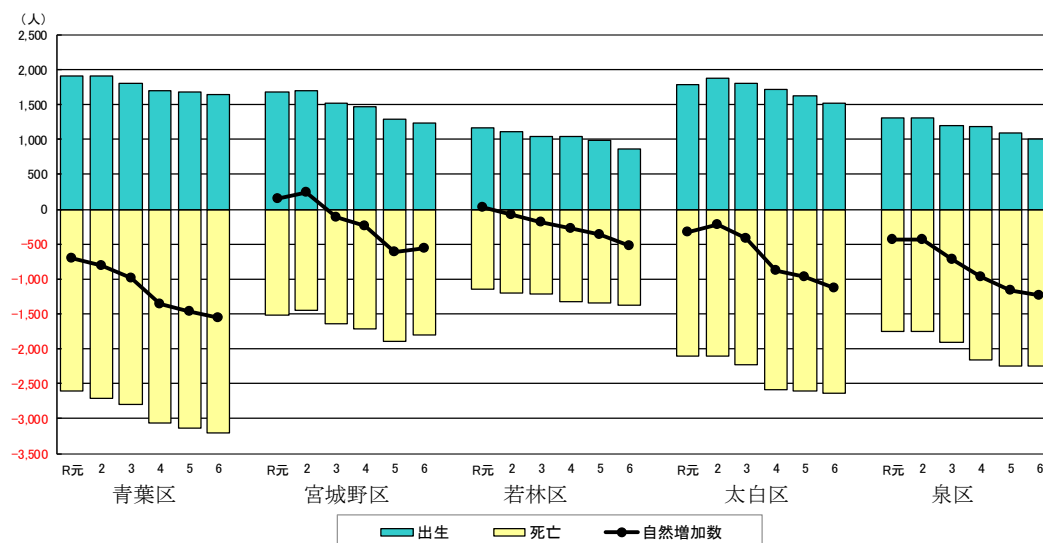


図4 自然動態の推移—区（令和元年～令和6年）

3 社会動態（区間移動含む）

令和6年の転入数は64,643人で前年より1,013人の減少、転出数は62,009人と前年より381人の減少となりました。この結果、転入・転出数の差にその他増加数140人を加えた社会増加数は2,774人となりました。前年の社会増加数3,431人に比べ657人の減少となっています。

区別の動向をみると、青葉区で県内移動、県外・国外との移動がともに転入超過となりました。宮城野区では県内移動が転出超過、県外・国外との移動が転入超過となり、若林区、太白区、泉区では県内移動が転入超過、県外・国外との移動が転出超過となりました。

社会増加数が最も多かったのは青葉区の1,871人（転入数20,678人、転出数18,826人、その他増加数19人）で、以下、太白区の1,070人（転入数12,653人、転出数11,647人、その他増加数64人）、若林区の277人（転入数8,965人、転出数8,721人、その他増加数33人）、宮城野区の△132人（転入数12,970人、転出数13,157人、その他増加数55人）、泉区の△312人（転入数9,377人、転出数9,658人、その他増加数△31人）でした。

（図5、統計表第1表）

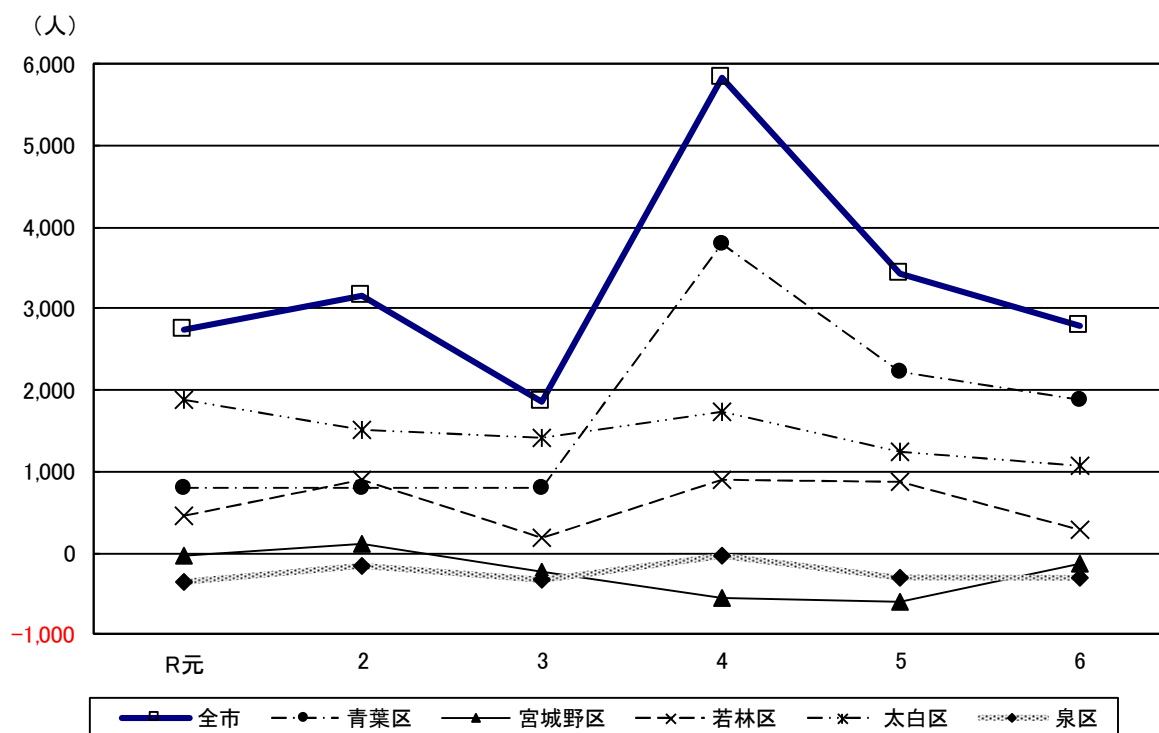


図5 社会増加数の推移—全市、区（令和元年～令和6年）

Ⅱ 住民基本台帳人口（日本人住民＋外国人住民）による社会動態

1 概要

令和 6 年の社会動態は、市外からの転入が 44,710 人、市外への転出が 42,077 人で、2,633 人の転入超過となりました。

これを地域別にみていくと、東京圏及び仙台都市圏内の他市町村に対して転出超過となっています。また、仙台都市圏以外の宮城県の市町、東北 5 県、その他の地方（国外含む）に対しては転入超過となっています。

この結果、区間移動と職権記載等の「その他増加数」を加えた社会増加数は 2,774 人となり、前年から減少しました。

（表 2、図 6、統計表第 2 表、統計表第 3 表）

表 2 転入数、転出数、社会増加数の推移－全市（平成 27 年～令和 6 年）

（単位：人）										
地 域	平成27年	28	29	30	令和元	2	3	4	5	6
転 入 数	48,377	46,561	46,948	46,888	46,888	44,314	43,061	47,136	45,545	44,710
宮城県	11,424	10,629	11,080	11,149	10,911	11,005	10,399	10,140	10,131	9,983
仙台都市圏内の他市町村	5,819	5,441	5,758	5,814	5,734	5,825	5,378	5,318	5,271	5,099
" 以外の市町	5,605	5,188	5,322	5,335	5,177	5,180	5,021	4,822	4,860	4,884
東北5県	13,334	12,930	13,128	13,515	12,977	12,840	12,879	13,232	13,070	12,526
東京圏	10,800	10,747	10,530	10,187	10,227	9,995	10,237	10,086	9,902	9,502
その他の地方（国外含む）	12,819	12,255	12,210	12,037	12,773	10,474	9,546	13,678	12,442	12,699
転 出 数	45,711	44,633	44,583	43,833	43,949	41,181	41,232	41,299	42,290	42,077
宮城県	10,761	10,223	9,788	9,355	9,044	8,873	8,856	8,716	8,669	8,273
仙台都市圏内の他市町村	6,710	6,186	5,794	5,632	5,632	5,418	5,327	5,404	5,274	5,168
" 以外の市町	4,051	4,037	3,994	3,723	3,412	3,455	3,529	3,312	3,395	3,105
東北5県	9,707	9,168	9,044	8,866	8,986	8,877	8,729	8,425	8,191	8,039
東京圏	14,376	14,433	14,638	14,511	14,831	13,398	13,506	13,583	14,441	14,520
その他の地方（国外含む）	10,867	10,809	11,113	11,101	11,088	10,033	10,141	10,575	10,989	11,245
社会増加数	2,666	1,928	2,365	3,055	2,939	3,133	1,829	5,837	3,255	2,633
宮城県	663	406	1,292	1,794	1,867	2,132	1,543	1,424	1,462	1,710
仙台都市圏内の他市町村	△ 891	△ 745	△ 36	182	102	407	51	△ 86	△ 3	△ 69
" 以外の市町	1,554	1,151	1,328	1,612	1,765	1,725	1,492	1,510	1,465	1,779
東北5県	3,627	3,762	4,084	4,649	3,991	3,963	4,150	4,807	4,879	4,487
東京圏	△ 3,576	△ 3,686	△ 4,108	△ 4,324	△ 4,604	△ 3,403	△ 3,269	△ 3,497	△ 4,539	△ 5,018
その他の地方（国外含む）	1,952	1,446	1,097	936	1,685	441	△ 595	3,103	1,453	1,454
※参考										
その他増加数	△ 369	△ 298	△ 241	△ 509	△ 194	27	17	△ 9	176	141
" を含む社会増加数	2,297	1,630	2,124	2,546	2,745	3,160	1,846	5,828	3,431	2,774

（△は転出超過数）

※「その他増加数」には職権記載・消除、国籍取得・喪失等のほかに、市内区間移動増減数が含まれている。

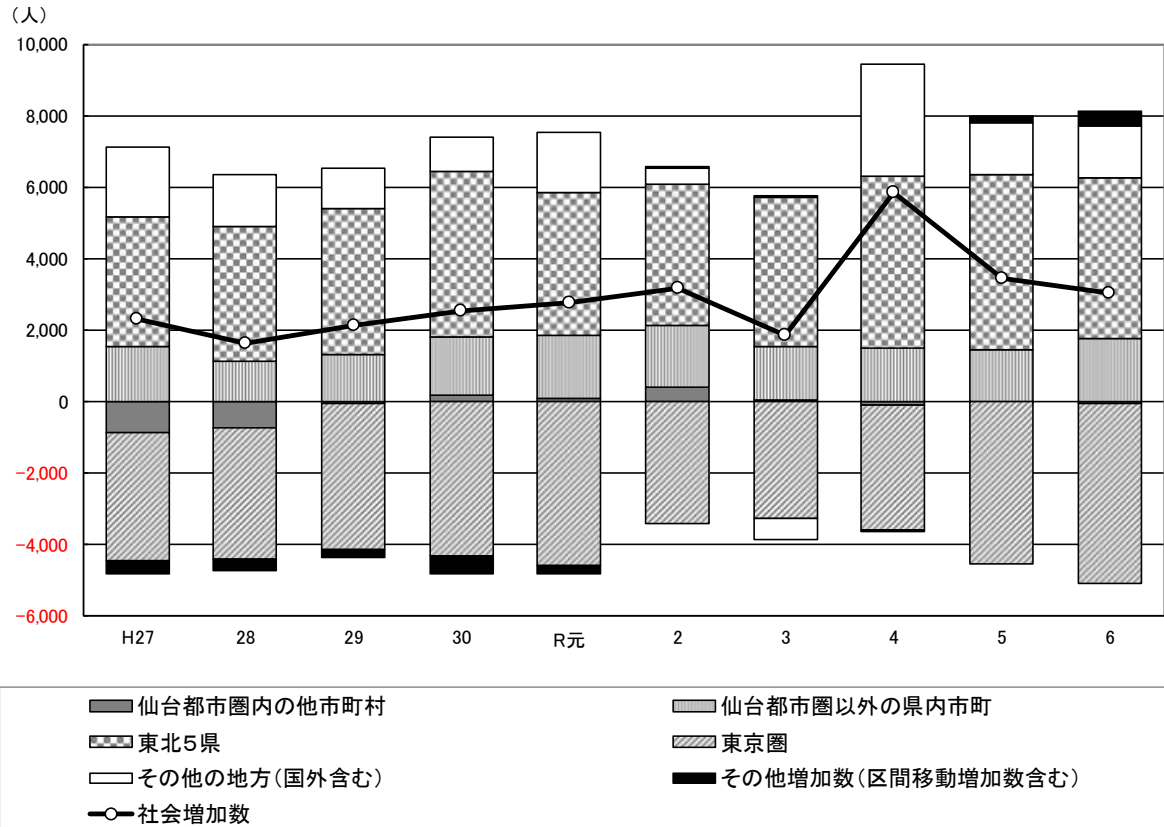


図6 地域別社会増加数（転入数－転出数）（平成27年～令和6年）

※地域別内訳の詳細については、図7～11を参照ください。

2 東京圏に対する人口移動

東京圏に対する人口移動は、転入数が9,502人、転出数が14,520人で、5,018人の転出超過となり、令和4年以降、転出超過が拡大しています。

（表2、図6、図7、統計表第2表）

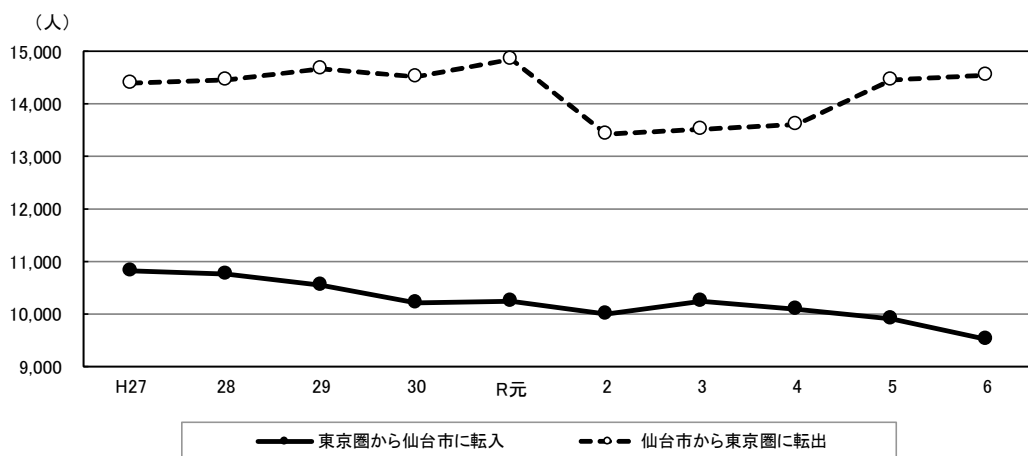


図7 東京圏との転出入数（平成27年～令和6年）

3 東北5県及びその他の地方（国外含む）に対する人口移動

東北5県に対する人口移動は、転入数が12,526人、転出数が8,039人で、4,487人の転入超過となりました。

（表2、図6、図8、統計表第2表）

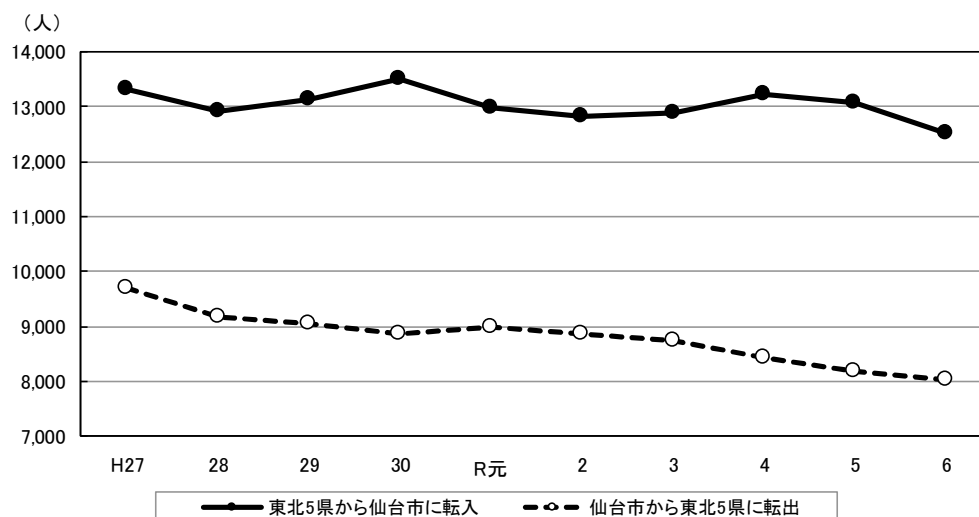


図8 東北5県との転出入数（平成27年～令和6年）

その他の地方（国外含む）に対する人口移動は、転入数が12,699人、転出数が11,245人で、1,454人の転入超過となりました。

（表2、図6、図9、統計表第2表）

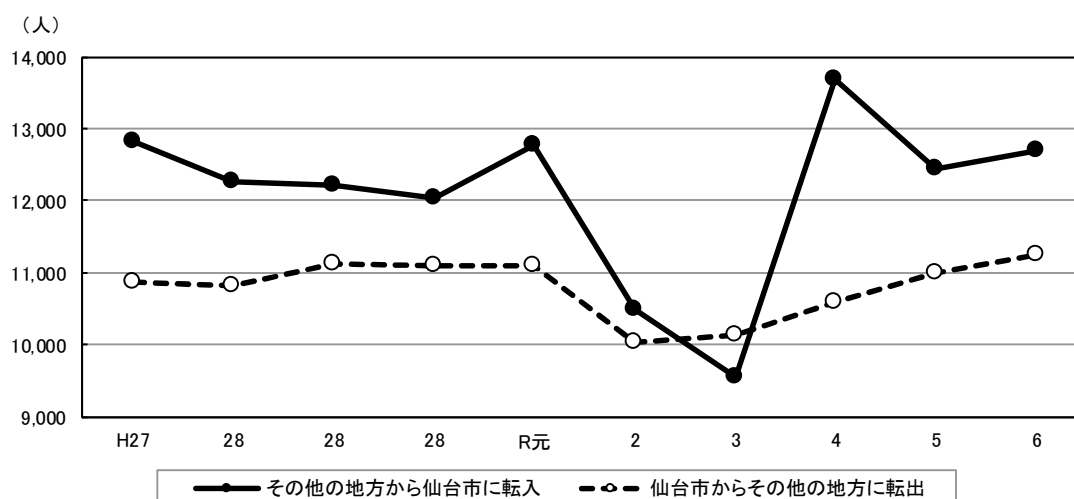


図9 その他の地方との転出入数（平成27年～令和6年）

4 県内他市町村に対する人口移動

仙台都市圏内の他市町村に対する人口移動は、転入数が5,099人、転出数が5,168人で、69人の転出超過となりました。市町村別の内訳をみると、転入超過が9市町村、転出超過が3市町、転入転出同数が1市となっています。

(表2、図6、図10、統計表第3表)

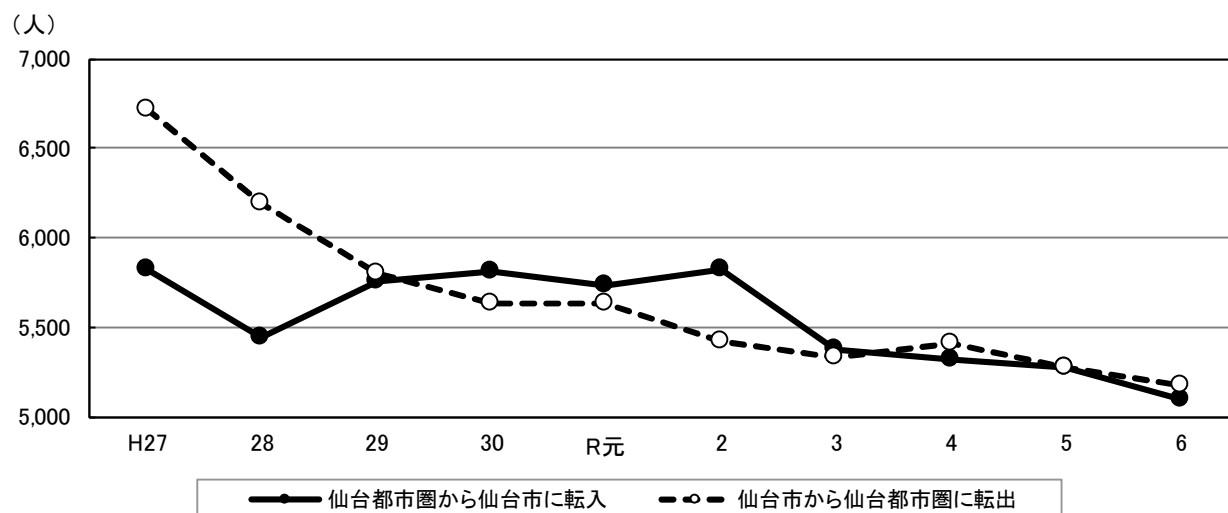


図10 仙台都市圏との転出入数 (平成27年～令和6年)

仙台都市圏以外の県内市町村に対する人口移動は、転入数が4,884人、転出数が3,105人で、1,779人の転入超過となりました。

(表2、図6、図11、統計表第3表)

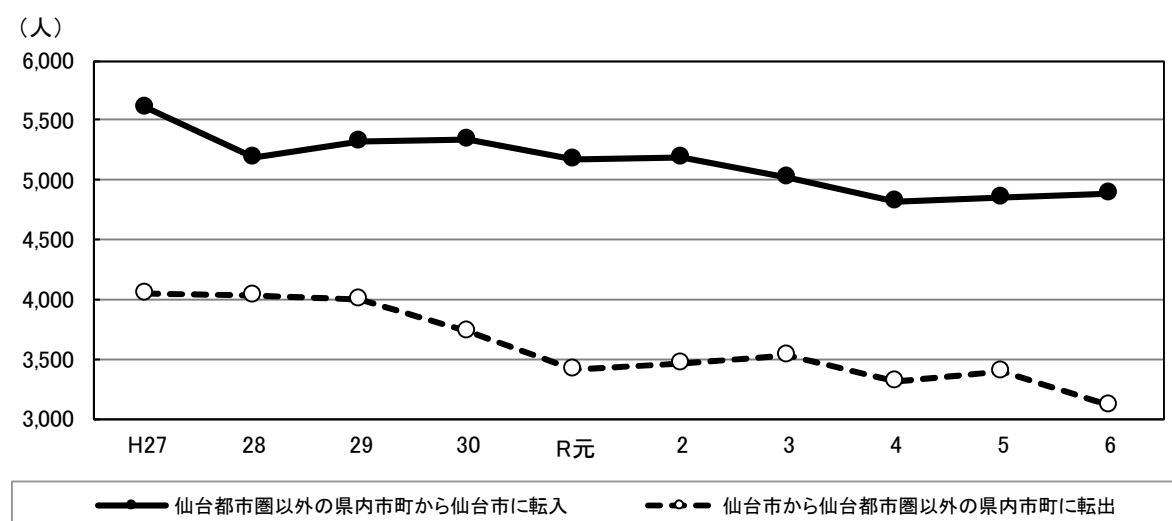


図11 仙台都市圏以外の県内市町村との転出入数 (平成27年～令和6年)

5 区別の社会動態

令和6年の区別社会動態は、青葉区、若林区、太白区で社会増となり、宮城野区、泉区で社会減となりました。その内訳について、次のような点が特徴として挙げられます。

- ① 市内他区に対しては、青葉区、宮城野区、泉区で転出超過。他2区は転入超過。
- ② 県内市町村に対しては、全区で転入超過。
- ③ 東北5県に対しては、全区で転入超過。
- ④ 東京圏に対しては、全区で転出超過。
- ⑤ その他の地方（国外含む）に対しては、青葉区、宮城野区、太白区で転入超過、他2区は転出超過。

（表3、図12、統計表第4表）

表3 社会増加数の地域別内訳一区（令和元年～令和6年）

（単位：人）

区、年次	社 会	市 内	宮城県			東 北	東京圏	その他の 地方 (国外含む)	その他
	増加数	他 区		仙台 都市圏	仙台 都市圏外				
青葉区									
令和元 年	800	△ 629	684	268	416	1,444	△ 1,727	1,204	△ 176
2	805	△ 50	627	143	484	1,344	△ 1,286	236	△ 66
3	810	△ 158	572	213	359	1,847	△ 1,280	△ 133	△ 38
4	3,786	277	697	213	484	1,955	△ 1,280	2,174	△ 37
5	2,225	131	687	279	408	1,928	△ 1,602	1,047	34
6	1,871	△ 165	535	102	433	1,670	△ 1,610	1,422	19
宮城野区									
令和元 年	△ 25	△ 204	189	△ 212	401	640	△ 770	98	22
2	111	△ 695	338	△ 34	372	731	△ 394	182	△ 51
3	△ 224	△ 578	44	△ 238	282	723	△ 688	234	41
4	△ 554	△ 909	44	△ 238	282	723	△ 688	234	42
5	△ 599	△ 791	60	△ 257	317	689	△ 743	174	12
6	△ 132	△ 525	126	△ 216	342	961	△ 870	121	55
若林区									
令和元 年	458	210	207	△ 16	223	497	△ 534	57	21
2	898	457	289	41	248	527	△ 419	△ 18	62
3	179	△ 281	124	△ 54	178	520	△ 360	180	△ 4
4	902	487	124	△ 54	178	520	△ 360	180	△ 49
5	869	456	190	40	150	609	△ 524	101	37
6	277	159	231	△ 63	294	577	△ 713	△ 10	33
太白区									
令和元 年	1,870	909	494	133	361	894	△ 700	308	△ 35
2	1,509	768	499	131	368	869	△ 710	46	37
3	1,418	62	453	81	372	1,062	△ 549	339	51
4	1,720	392	453	81	372	1,062	△ 549	339	23
5	1,242	596	305	△ 31	336	1,119	△ 970	128	64
6	1,070	606	482	79	403	840	△ 978	56	64
泉 区									
令和元 年	△ 358	△ 275	293	△ 71	364	516	△ 873	18	△ 37
2	△ 163	△ 460	379	126	253	492	△ 594	△ 5	25
3	△ 337	△ 504	106	△ 88	194	547	△ 620	176	△ 42
4	△ 26	△ 240	106	△ 88	194	547	△ 620	176	5
5	△ 306	△ 381	220	△ 34	254	534	△ 700	3	18
6	△ 312	△ 74	336	29	307	439	△ 847	△ 135	△ 31

※「その他増加数」には職権記載・消除、国籍取得・喪失等が含まれている。

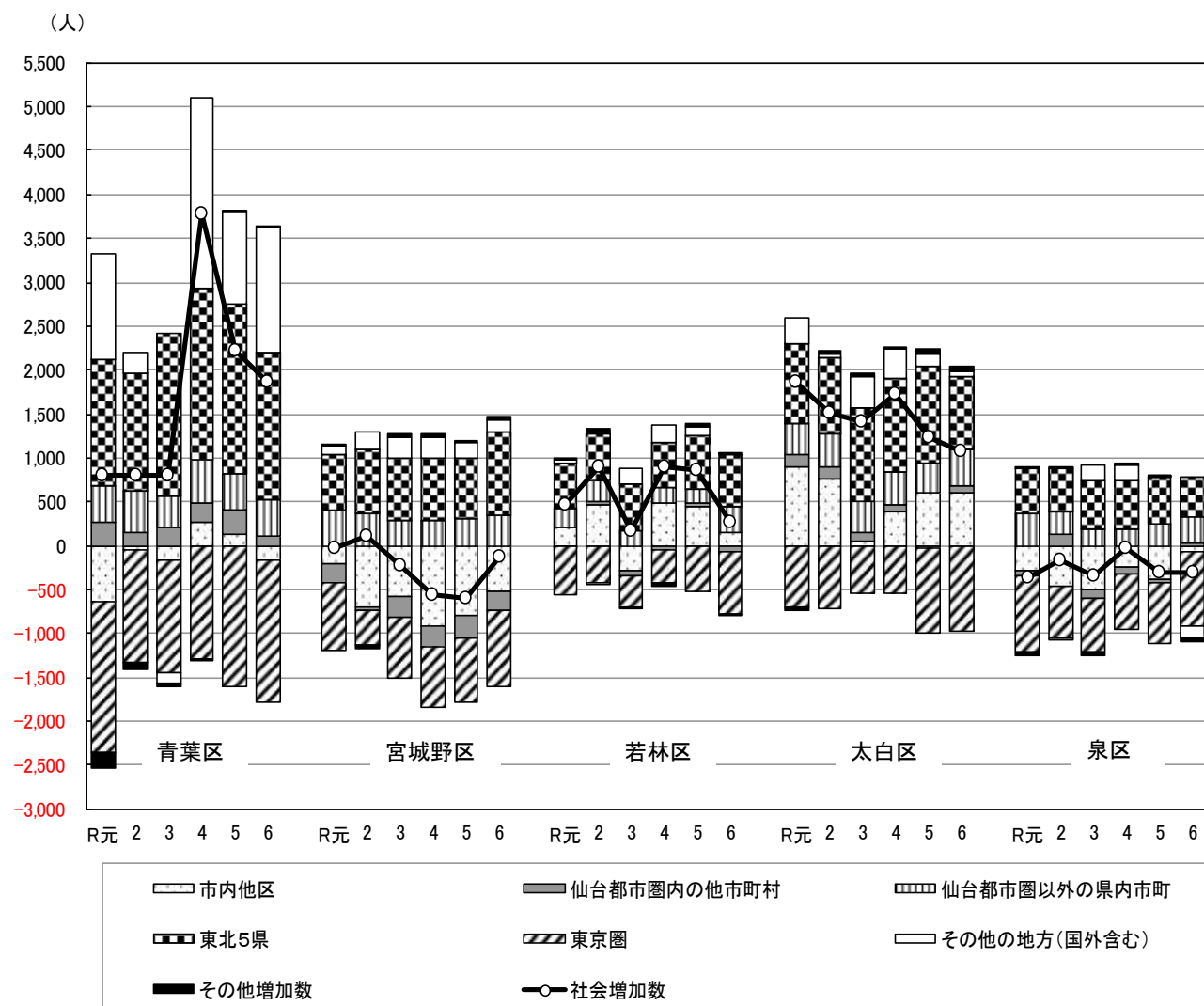


図 1 2 地域別社会増加数（転入数－転出数）－ 区 （令和元年～令和 6 年）

転入・転出の差し引きによる、区別の対市内他区社会増減をみると

- ・ 青葉区は若林区、太白区に対して転出超過で、全体では 165 人の転出超過となっています。
- ・ 宮城野区はすべての区に対して転出超過で、全体で 525 人の転出超過となっています。
- ・ 若林区は青葉区、宮城野区に対して転入超過で、全体では 159 人の転入超過となっています。
- ・ 太白区はすべての区に対して転入超過で、全体では 606 人の転入超過となっています。
- ・ 泉区は青葉区、太白区に対して転出超過で、全体では 74 人の転出超過となっています。

また、相互間の移動数に最も差があるのは宮城野区・太白区間の移動で、太白区は 250 人（＝862 人－612 人）の転入超過となっています。

（表 3、統計表第 4 表）

転入ベースで区間相互における人口移動をみると、最も人口移動が多いのは、青葉・泉区間で 3,041 人（=1,456 人+1,585 人）となっています。逆に最も人口移動が少ないのは、若林・泉区間で 752 人（=384+368 人）となっています。

（図 1 3）

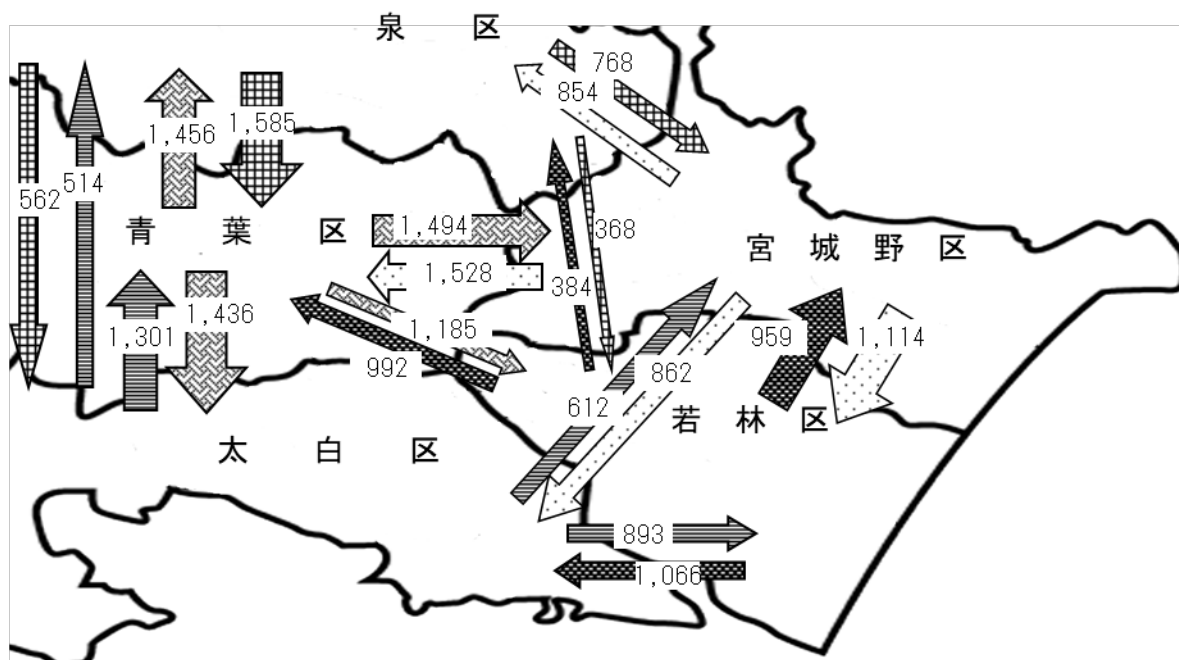


図 1 3 区間人口移動（令和 6 年 転入ベース）

6 年齢（5 歳階級）別の人口移動

年齢（5 歳階級）別の人口移動をみると、転入数・転出数ともに最も多い年齢は 20～24 歳で、転入数 11,376 人、転出数 9,430 人でした。

（図 1 4、統計表第 5 表）

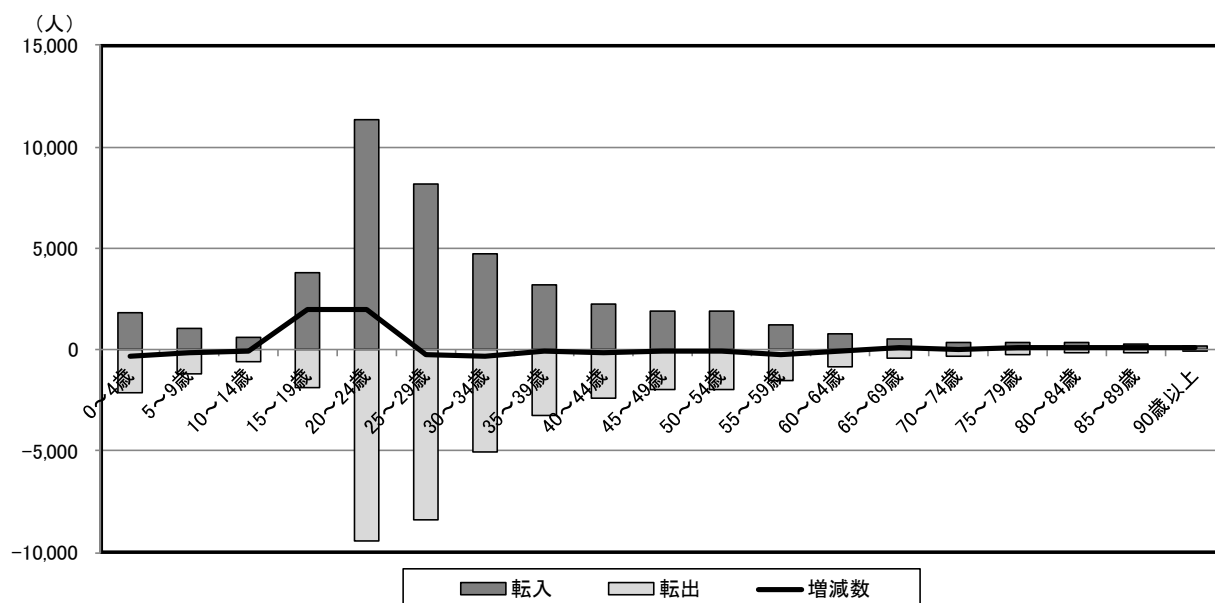


図 1 4 年齢（5 歳階級）別転出入数（令和 6 年）

20～24 歳における転出入数を地域別にみると、転入割合が最も大きいのは東北 5 県からの転入（32.7%）で、次いで、宮城県内の他市町村からの転入（20.1%）となっています。また、転出割合が最も大きいのは東京圏への転出（41.2%）で、次いで、東北 5 県への転出（21.9%）となっています。

（図 1 5、統計表第 5 表）

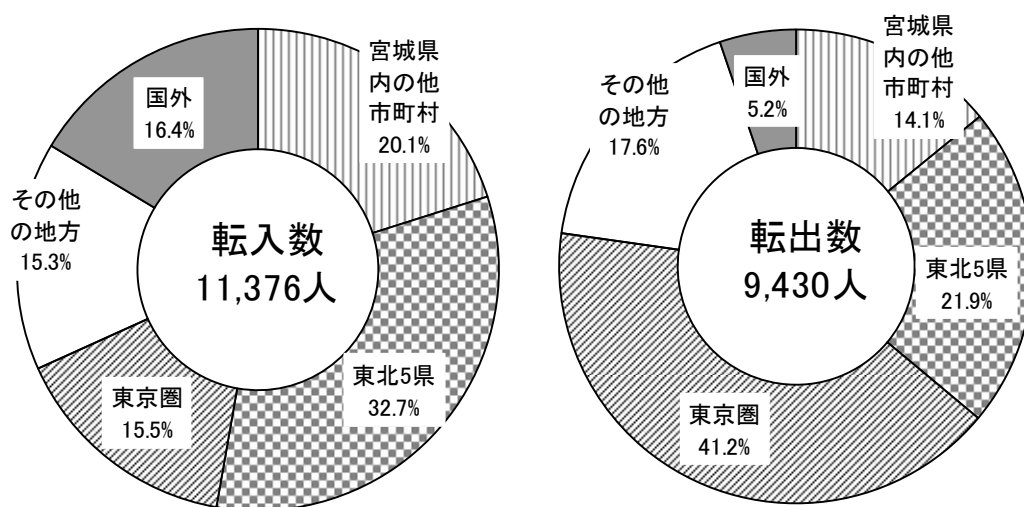


図 1 5 転出入数の地域別割合－20～24 歳（令和 6 年）

令和2年以降の年齢（5歳階級）別の人口移動の推移をみると、転入超過数については、令和4年を除いて15～19歳が最も多く、令和6年は1,957人（3,805人－1,848人）でした。転出超過数については、令和5年を除き0～4歳が最も多く、令和6年は314人（1,798人－2,112人）でした。

（図16、統計表第5表）

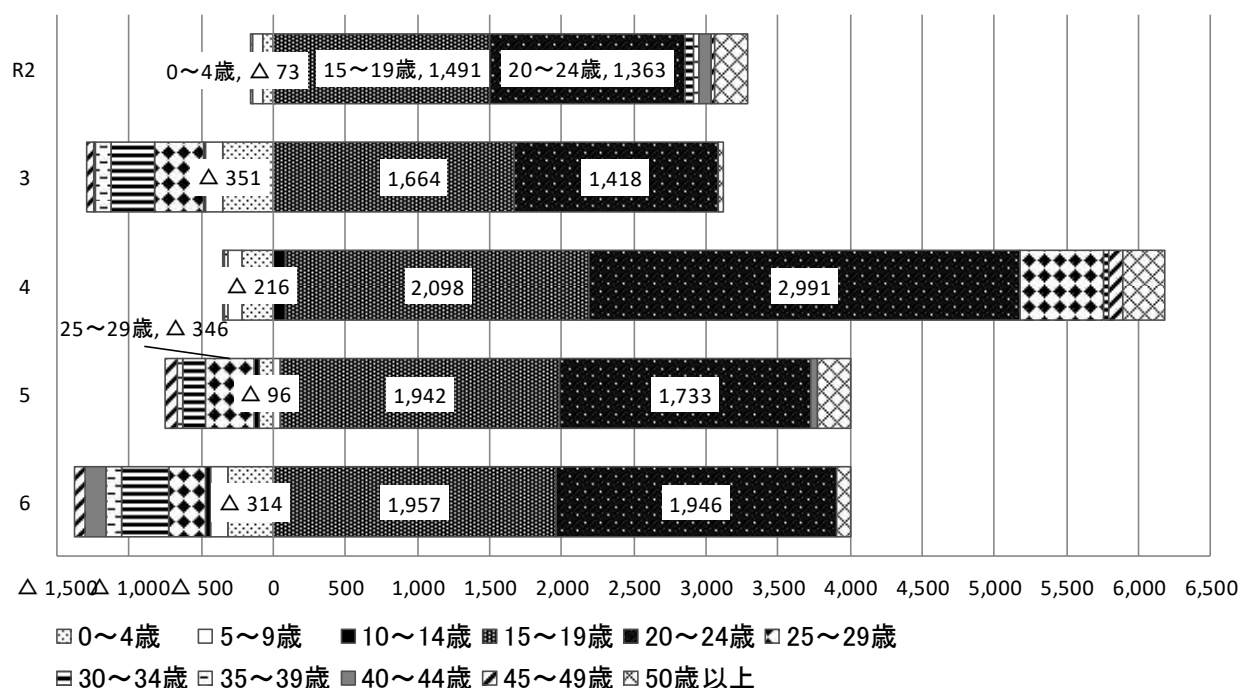


図16 年齢（5歳階級）別の人口移動の推移（令和2年～令和6年）

令和6年の転入超過が最も大きい15～19歳における転入数を地域別割合でみると、最も大きいのは東北5県（44.9%）で、次いで宮城県内の他市町村（18.9%）となっています。

また、令和6年の転出超過が最も大きい30～34歳における転出数を地域別割合でみると、最も大きいのは東京圏（31.1%）で、次いで、宮城県内の他市町村（23.7%）となっています。

（図17、統計表第5表）

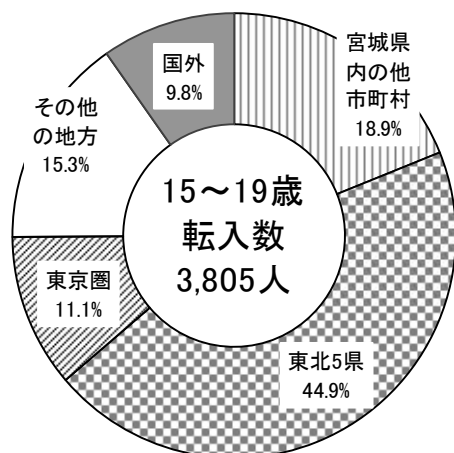


図17-1 転入数の地域別割合
—15～19歳（令和6年）

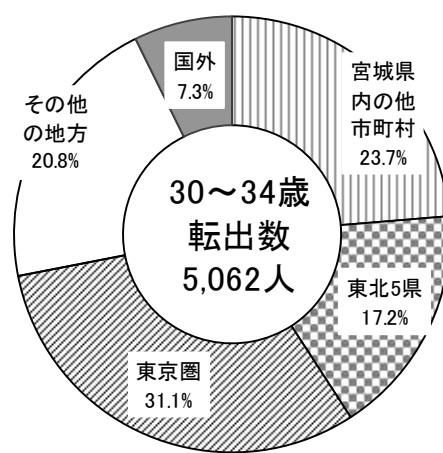


図17-2 転出数の地域別割合
—30～34歳（令和6年）